



TOKYO TEST FEST



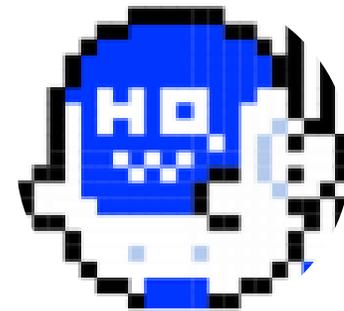
# JSTQBのご紹介 Introduction of JSTQB

2024/11/15

NPO ASTER/JSTQB 大西 建児 / Kenji Onishi

# Self Introduction

- 大西 建児 / Kenji Onishi
- Technical Committee : International Representative
- ベリサーブ
  - 広報・マーケティング部所属 Testing Evangelist
  - オウンドメディア(HQW!) Chief Editor



# セッション概要

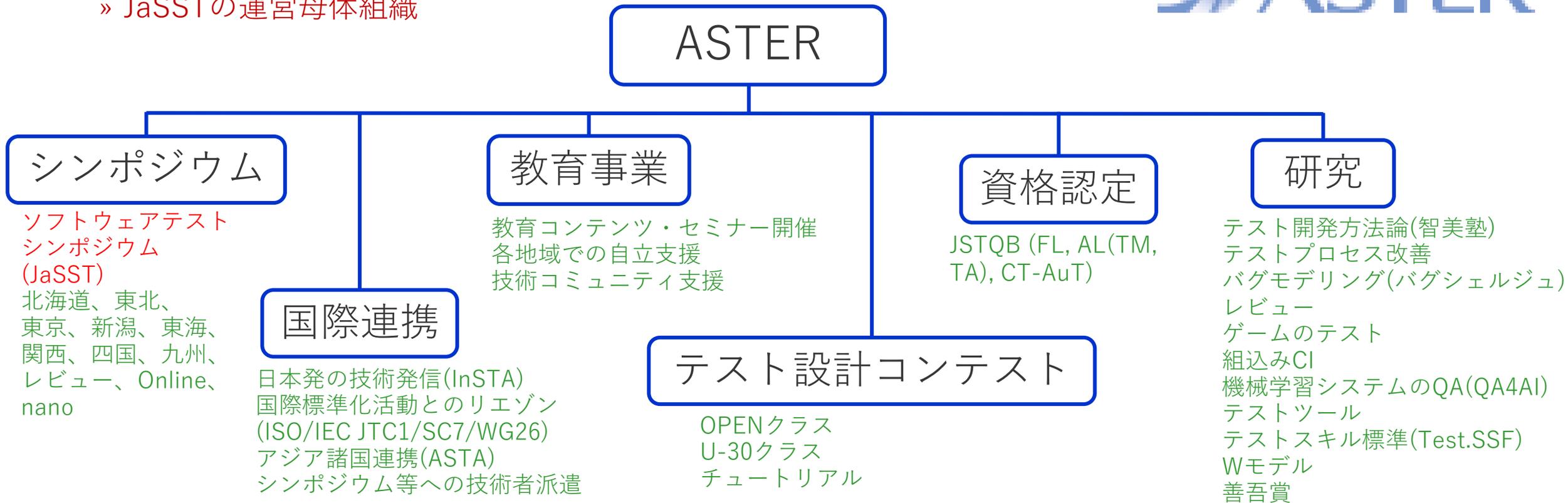
- JSTQBの紹介
- パートナープログラムの紹介

# ASTER: ソフトウェアテスト技術振興協会

Association of Software Test EngineerRing

ソフトウェアテストを軸にして、ソフトウェア品質向上に関する研究開発、普及振興、教育、国際連携、資格認定などの事業を行う特定非営利活動法人(NPO法人)

- » 2006年4月に東京都のNPOとして設立
- » 全国で理事・会員ともにボランティアで活動
- » JaSSTの運営母体組織

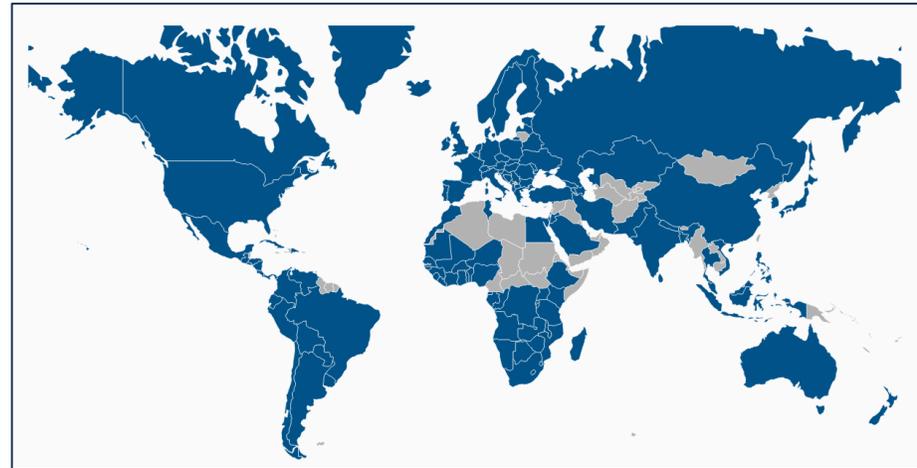


# JSTQBの紹介

---

# JSTQBの認定資格は国際資格

- JSTQBは、日本のソフトウェアテスト技術者資格の認定機関  
ISTQB（International Software Testing Qualifications Board）に加盟  
国内の受験者は5万人、認定技術者が2万7千人を突破（2024年9月時点）
- ISTQBを通じて世界130カ国以上と資格を相互認証



- 日本政府のIT国家戦略で推奨されるIT技術者資格の一つ（※1）

※1：IPAによるITスキル標準（ITSS）のキャリアフレームワークと認定試験・資格にJSTQBの資格が含まれています

# ISTQBとは

- ソフトウェアテストのリーディングスタンダード
- 世界的に認められており、世界130カ国以上が加盟している

1,200,000以上の試験実施と840,000以上の認定証の発行

ISTQBが認証している資格には以下のようなメリットがあります

- 国際的に認められた資格として、世界中で専門家としての信頼性を得られます
- 専門家としてのキャリアアップをサポートする資格です
- 雇用企業が信頼することができるスキルとして証明されています



# 日本全国での資格取得

テストセンターは  
47都道府県にあります



受験日程は  
希望日を選べます

JANUARY/2024

SunDAY	MonDAY	TuesDAY	WednesDAY	ThursDAY	FriDAY	SaturDAY
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

部門単位で決まったタイミングでの受験を希望する場合、  
運営パートナーの日科技連が提供している  
PBT（ペーパー・ベースド・テスト）も利用できます

PBTはFoundation Level 試験のみとなっていますが、  
JSTQB認定研修とセットになったメニューも用意しています

# 学習に使うシラバスは無料です

テスト技術者資格制度  
Foundation Level シラバス



International Software Testing Qualifications Board

## テスト技術者資格制度 Foundation Level シラバス

Version 2023V4.0.J01

International Software Testing Qualifications Board



International Software Testing Qualifications Board

V4.0 ページ1/73 2023年

© International Software Testing Qualifications Board  
© 2023 JSTQB Japan Software Testing Qualifications Board Version 2023V4.0.J01

テスト技術者資格制度  
Foundation Level シラバス



International Software Testing Qualifications Board

### 2.1 コンテキストに応じたソフトウェア開発ライフサイクルでのテスト

ソフトウェア開発ライフサイクル (SDLC) モデルとは、ソフトウェア開発プロセスを抽象的かつハイレベルに表現したものである。SDLC モデルは、このプロセスの中で実施するさまざまな開発フェーズや活動の種類が、論理的かつ時系列的にどのように互いに関連しているかを定義する。SDLC モデルの例としては、シーケンシャル開発モデル (例えば、ウォーターフォールモデル、V字モデル)、イテレーティブ開発モデル (例えば、スバイラルモデル、プロトタイプ化)、インクリメンタル開発モデル (例えば、スクラムプロセス) などがある。

ソフトウェア開発プロセスの中には、より詳細なソフトウェア開発手法やアジャイルプラクティスで説明できる活動もある。例としては、受け入れテスト駆動開発 (ATDD)、振る舞い駆動開発 (BDD)、ドメイン駆動設計 (DDD)、エクストリームプログラミング (XP)、フィーチャー駆動開発 (FDD)、カンバン、リーンIT、スクラム、テスト駆動開発 (TDD) がある。

#### 2.1.1 ソフトウェア開発ライフサイクルがテストに与える影響

テストの成功のためには、SDLC への適応をしなければならない。SDLC の選択は、以下のことに影響する。

- テスト活動の範囲とタイミング (テストレベルやテストタイプなど)
- テストドキュメントの詳細レベル
- テスト技法とテストアプローチの選択
- テスト自動化の範囲
- テスト担当者の役割と責任

シーケンシャル開発モデルでは、初期段階では、テスト担当者は通常、要件レビュー、テスト分析、およびテスト設計に参加する。実行可能なコードは通常、後のフェーズで作成されるため、通常、動的テストは SDLC の初期には実施できない。

イテレーティブ開発モデルやインクリメンタル開発モデルでは、各イテレーションで作成成果物であるプロトタイプやプロダクトインクリメントを提供することが前提となっているものがある。これは、各イテレーションにおいて、静的テストと動的テストの両方が、すべてのテストレベルで実行される可能性があることを意味する。インクリメントを頻繁に提供するためには、迅速なフィードバックと広範なリグレッションテストが必要となる。

アジャイルソフトウェア開発では、プロジェクトを通じて変更が生じる可能性があることを想定してい

V4.0 ページ26/73 2023年4月12日

© International Software Testing Qualifications Board  
© 2023 JSTQB Japan Software Testing Qualifications Board Version 2023V4.0.J01

テスト技術者資格制度 Foundation Level Specialist シラバス  
自動車ソフトウェアテスト担当者



German Testing Board  
Software Testing Excellence

## テスト技術者資格制度 Foundation Level Specialist シラバス 自動車ソフトウェアテスト担当者

Version 2018.J03

International Software Testing Qualifications Board

Copyright Notice

This document may be copied in its entirety, or extracts made, if the source is acknowledged.

Copyright © International Software Testing Qualifications Board (以降 ISTQB®) .

テスト技術者資格制度 Foundation Level Specialist シラバス  
自動車ソフトウェアテスト担当者



German Testing Board  
Software Testing Excellence

### 2.2.5 ISO 26262 の文脈における CTFI®からのコンテンツの適用 (K3) [60分]

ISO 26262 は、テスト担当者に対して、固有の推奨案を手法テーブルの形式で提供している。これらのテーブルは、パート 4、5、6、および 7 で提供されている。プロセスや活動に関する機能安全固有の推奨案とは別に、テスト担当者が使用する技法も含まれている。

この文脈では、標準は「手法」という用語を、適用可能な技法や活動すべてに関連して使用している。この点において、機能安全の用語は、ISTQB®の用語とは若干異なる。テスト担当者にとって、ISO 26262 の以下の手法は、特に重要である。

- テスト設計技法 (例：同値分割法、境界値分析)
- テスト実行の技法 (例：システムまたはその一部のシミュレーションまたはプロトタイプ)
- テストタイプ (例：性能テストなどの非機能性テスト、ワークテスト<sup>1)</sup>)
- テスト環境 (例：HIL、車両)
- 静的テスト技法 (例：レビュー、静的解析)

手法テーブルは、各 ASIL レベルに対して標準で推奨される手法を定義する。

手法テーブルは、常に同じ構造で定義する。

表 1: 手法テーブルの例

	ASIL A	ASIL B	ASIL C	ASIL D
1 手法 x	o	+	++	++
2 手法 y	o	o	-	+
3a 手法 z1	++	++	++	++
3b 手法 z2	++	+	o	o

ASIL レベルに応じて、各手法に対して、その使用が推奨される (+)、または強く推奨される (++) 標準では、その使用について推奨、

例の行 3a と 3b)。このような場合、リンクできる適切な組み合わせを選択しなくてはならない。

。テスト担当者は、該当する ASIL レベル、

場合、通常適用される。

る。

ソフトウェアテストの1冊 [37]  
English Version 2.0  
© 日本語訳版 2018.J03

ページ26/64

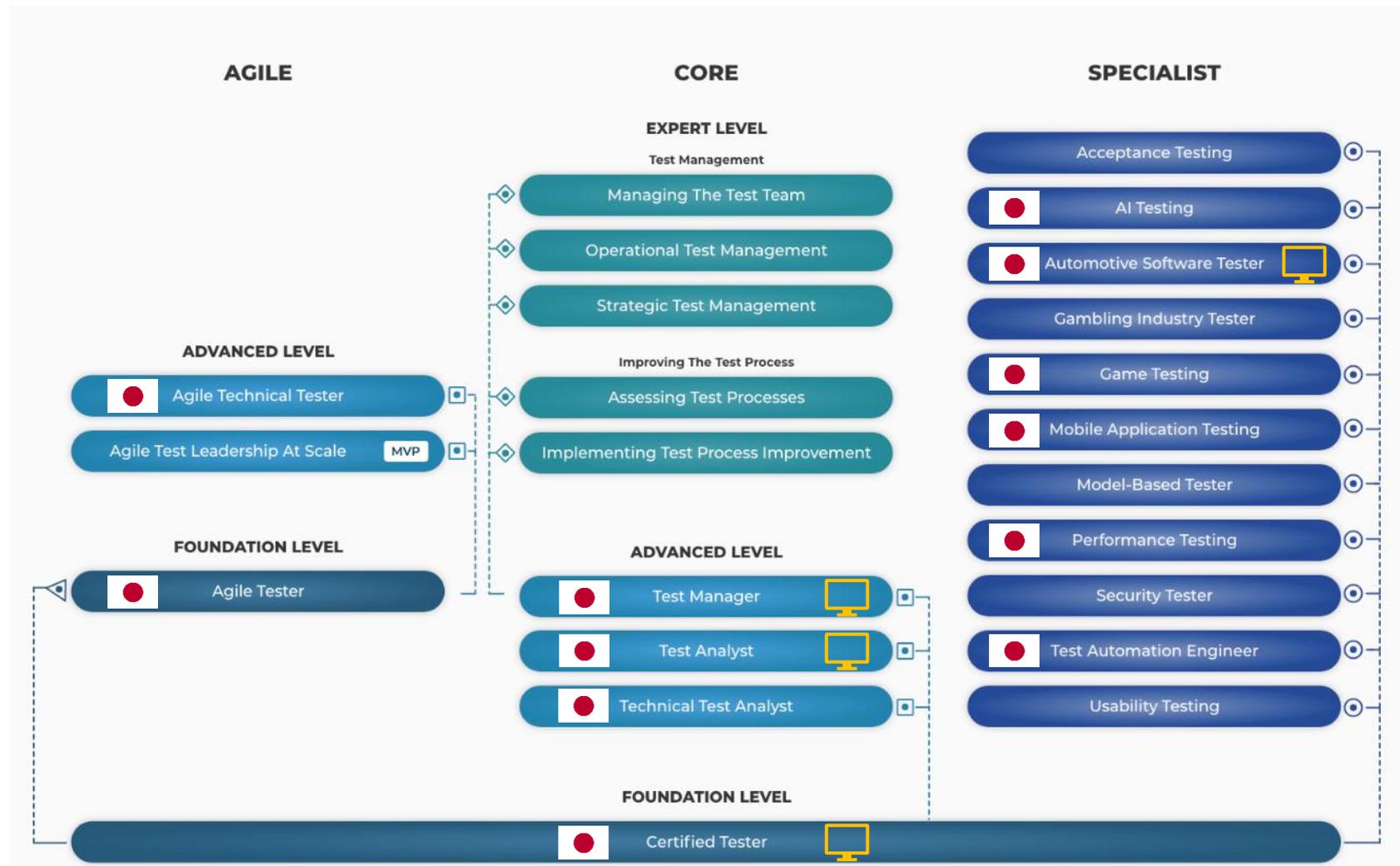
4 July 2018

JSTQBは無料で日本語翻訳シラバスを公開しています

# 日本語シラバス・日本語の受験

🇯🇵 日本語翻訳済みシラバス

📺 日本語で受験できる資格



# パートナープログラムの紹介

---

# パートナープログラムとは

JSTQBはソフトウェア品質技術及びテスト技術向上への取り組みを  
アピールできるパートナープログラムを提供しています  
すでに80社以上の企業様が参加！

各社でパートナーロゴを使用した活動を行っております

パートナーレベル	ポイント	付帯内容
Silver	5	無し
Gold	14	1名のAdvanced Level認定者が在籍
Platinum	30	3名のAdvanced Level認定者が在籍
Global	-	ISTQB加盟国でGold2つ以上+Platinum1つ以上

資格レベル	ポイント
Foundation	1
Advanced	3
Expert	5

# 来秋 20周年イベントを企画中！



JSTQBは2025年に設立20周年を迎えます  
毎年開催しているJSTQBカンファレンスを上回るイベントを計画中  
20周年ならではの内容にご期待ください♪